

日本名所風流千景集

卷ノ一

中村俊定文庫
文庫 18
923
1





悟善

小勝

蘇子曼



編



舞 子
舞 子

舞 子
舞 子





清
秀

是
友

香
甫
山



卷之九



乃子

乃子



風 流 見
性 耐



其子一月

寶居月流



汲取溪泉手自烹
竹陰茶話風交情
欲題佳句沈吟久
半下菴中默聽鶯

明治廿五年一月正旦
七十二叟旭齋題



叙
山川草木者。地之美景。而所謂名稱奇觀者。亦
不鮮少也。雖然。欲盡探討之。則宇內之廣。勝地之多。
真不能盡其觀者也。京都。步之。卒。稻。雄。君。俳。家。
之。宗。也。志。情。懇。篤。黽。勉。匪。懈。或。建。芭。蕉。翁。之。碑。石。
或。起。俳。諧。之。齋。場。等。其。他。偉。績。不。遑。枚。舉。矣。乃。春。
編。一。書。命。曰。本。千。景。集。天。下。之。名。邑。勝。區。皆。會。
于。寸。眸。中。諸。州。之。名。山。大。川。悉。聚。于。一。掌。上。足。不。
出。戶。庭。足。以。知。全。國。之。奇。觀。其。功。豈。淺。鮮。乎。我。君。
徵。序。於。余。歡。喜。之。餘。不。辭。不。文。序。以。述。喜。云。
明。治。廿。四。年。臘。月。下。浣。丹。蓉。增。山。守。正。撰。於。東。京。
駿。臺。鈴。木。街。僑。居。




星洲天戶鄰書



雲士の如流るる我の歩むは
 耳を洗ひ石枕を冷ゆる
 志ありあり流るる我の歩むは
 各務の事とあるは清く日本各務
 日とあるは清く日本各務
 此等事取方と書中月と情とある

甲子、徳光を拙多詞家烟香の癖
 橋の名は有て空と果と云ふは友と
 さらぬるを判ておははるるは
 詞義越して中へ入るるは

明治五年五月
 庚午年


始にうゝの記ある日本名所千景輯
を執るのを編る者なり其数算亦高
猶京と眼に見つゝをも懐く納め
たつて風交の階梯ならんとたむひ
を、ききし者難く佳吟をこと
きたしむる口をならん其白彦中一を
埋るるや中も呼ばそののまをん
を、執るふとさらしあるの幸福は

よむるものありたらしききとむり
其友をて世に廣く之とせりといふ
たのきり席してよむり越さした
るりぬふまふつゝあふいとをさあか
と風流の志ありなるなり
南の北のともやよおめてまふに

明治二十五年一月 建 休



幸しく遊ハレの教をたしむることありふあり宗祇
と縁を極とて且宗祇袋の果はひと事祖
翁ハ東海道の前も又さるる人ハ雅志其末な
しと濫ハつてさるる幸ハ山ハ波海を跋歩ま
るる容易なる事ありし事。今ハ氣早氣船あり
て國ハ從横を不便なること無ク疾歩あり
のみことせしむるおかしき務田孫を探。ハ却て
便あり其末をさるる主人言ハ又さるる所ありしこと
ハ日本名義ハ風流干景集ハ編輯志ハ居なる。

ハ名所ハ知らば志老人ことハ必也起されハ必也
乃お小意き。ハ如く忽ち金をハ玉者机上
山成をハ日なるハ成成せんことハ不疎ハその
始ハその書ハよとあるハよとあるハよとあるハ
るハよとあるハよとあるハよとあるハよとあるハ
源ハよとあるハよとあるハよとあるハよとあるハ
りて編者ハ之ハ不事ハことハ志ハつり
のハよとあるハよとあるハよとあるハよとあるハ

装本園梅窓



傷きかゝるものもあつた
うきうきと悦ぶものもあつた
欲するものもあつた
世間の賜ものもあつた
千口京は染ものもあつた

うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中
うきうきの世の中



書

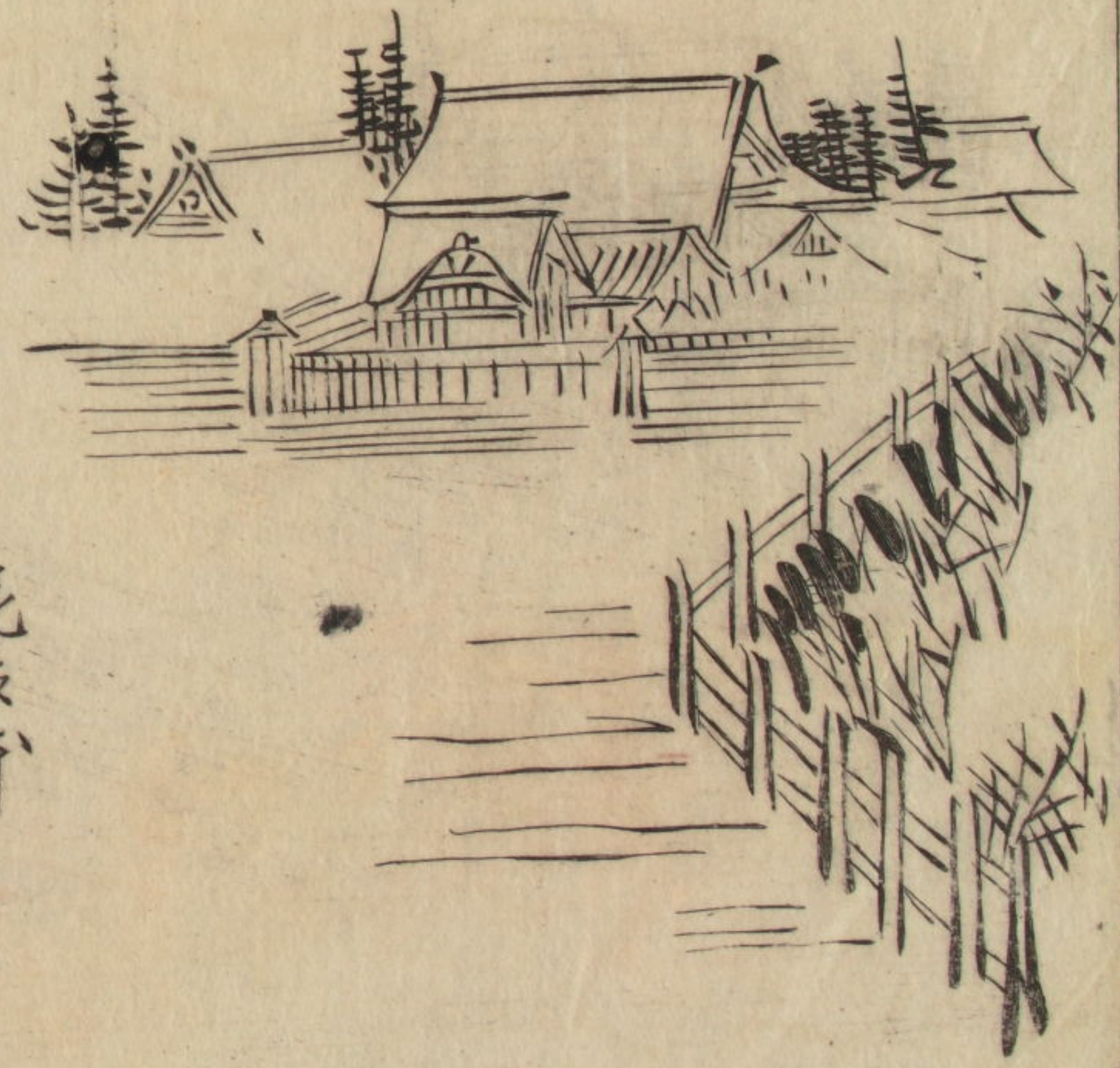
序詞

古池の流きそは海の流き芭蕉の風雪よ吹付てつる緑は昔の
 明法の令もむるといふ源は流きそあり山あり河ありは赤風館の
 お観風舎をむと申物雄家逸千系集は昔あり流き山といふ
 の名水を知りて山宮なりけりなほ色を踏みて身輕くまはる
 海を渡るほど橋との烟霞を觀るは思ひあり此は世に思ひ
 とそ思ひて水の身目の及びを記きたまをふといふは語短く
 俳句の流美しや有なりし然れども此はけしきの一白芳山
 浮やするお施の短語烟霞嶽の光景を思おせしむ今此編
 左の垂神額をたすはなりのありなほをたすは古傳お替
 祖の山は法也とい一段のち枕詞おたのめもいとすも四
 さらけ便あり家おたのめ月花老の情まこといふまはあ
 可まやといひたおき言わさるるをまは後い

越前山

草野 曉 尾 難 海





公園と隈あり
思ひし神加

花之
籠
雄

羽後国北秋田郡長木澤又大澤所大落圖



和軒寫
種軒

落の葉多き落
年々見まわすも

金風
種軒

卷八

北海道志積丹郡末村稻穂寄景



稻穂崎

田作りの取きる
場所あり

沼田

卷八



松の影を
 休むる氣の
 さくら木が
 ひかり

江月



眼
 髪
 如
 手
 人
 愛
 秋

江月



景絶ノ山鳥飛京東



江月



散る花の
隈に
かよ
まき
夕日

松光



景絶之保三川瀬緩流上之川田隅藏武下府京東



高下奥の
緩瀬
老
苗代田

東京
新南

江月



越後國中蒲原郡若宮神社圖



越後代の越中郡若宮

ヤシロウ

二美

卷ノ一

根室国室根港鎮座郷社金刀比羅神社景



琴ひの山の

つらつら

松ヶ浦

松ヶ浦

松ヶ浦

松ヶ浦

松ヶ浦

松ヶ浦

松ヶ浦

卷ノ一

三

景絶之尺千五橋名濱国江遠



溪名也

カキヤ

さすて

月の

七十八

や

お

卷一

塚琴郡見厚国濃美



山王

志之屋

松や

むく

かき

かき

かき

卷一

上野吾妻郡大戸村立山第一圖



こららの
鳴るゝの
梅々や初を
萩 琴

榛山

立山第二圖在干草津礦泉街道傍



又とわ
梅々
辛夷
梅白

榛山写



神宮

月名社

山

のり

雉の山



橋

藤葉川

汲人

ちのき

とん

堰



雲水の
中より

松あり

茶河利

岩洞松都氏茶邸小

甫山



筑波や

筑波

あり

筑波

東雲





滝乃
 錦とり
 音くし
 水菜
 あり

梅枝

巻一



神垣や
 千歳の
 松乃
 あり
 スルカ
 三軒

巻一

常陸國水戸市僊之景

福田采山
 風靜波平好晚晴
 輕舟徐棹暢幽情
 清挺恍聽祚仙樂
 吹送鄰々囁々聲



因幡國八東郡姫路村鎮座安徳天皇杜景

此杜中の
 ありハ
 志流
 ありハ
 ありハ





美馬の様

ミナトの霧の美

美馬
山花



すきや
ゆきや
ゆきや

印

伊豫にてハ
右樵山に
さしあり

雪霧にて
さしあり

見ゆ
さしあり

さしあり

印
印

豊前國宇佐郡乙女村八幡宮實景



江のあや
風まき
らむ
あや
吹花

筑後國生葉郡長野花絶景



あやれりと
忘る
花七
西り
景風
子剛白とや
花絶の絶後二景
景風



懐坐乃志老々
 懐乃月
 君心



長門萩
 八景之内
 鶴江夕照
 夷鶴也
 洞夕名此
 影所中
 来卷

陸奥前国黒川郡七ツ森雪景



七ツ森深くも雪小

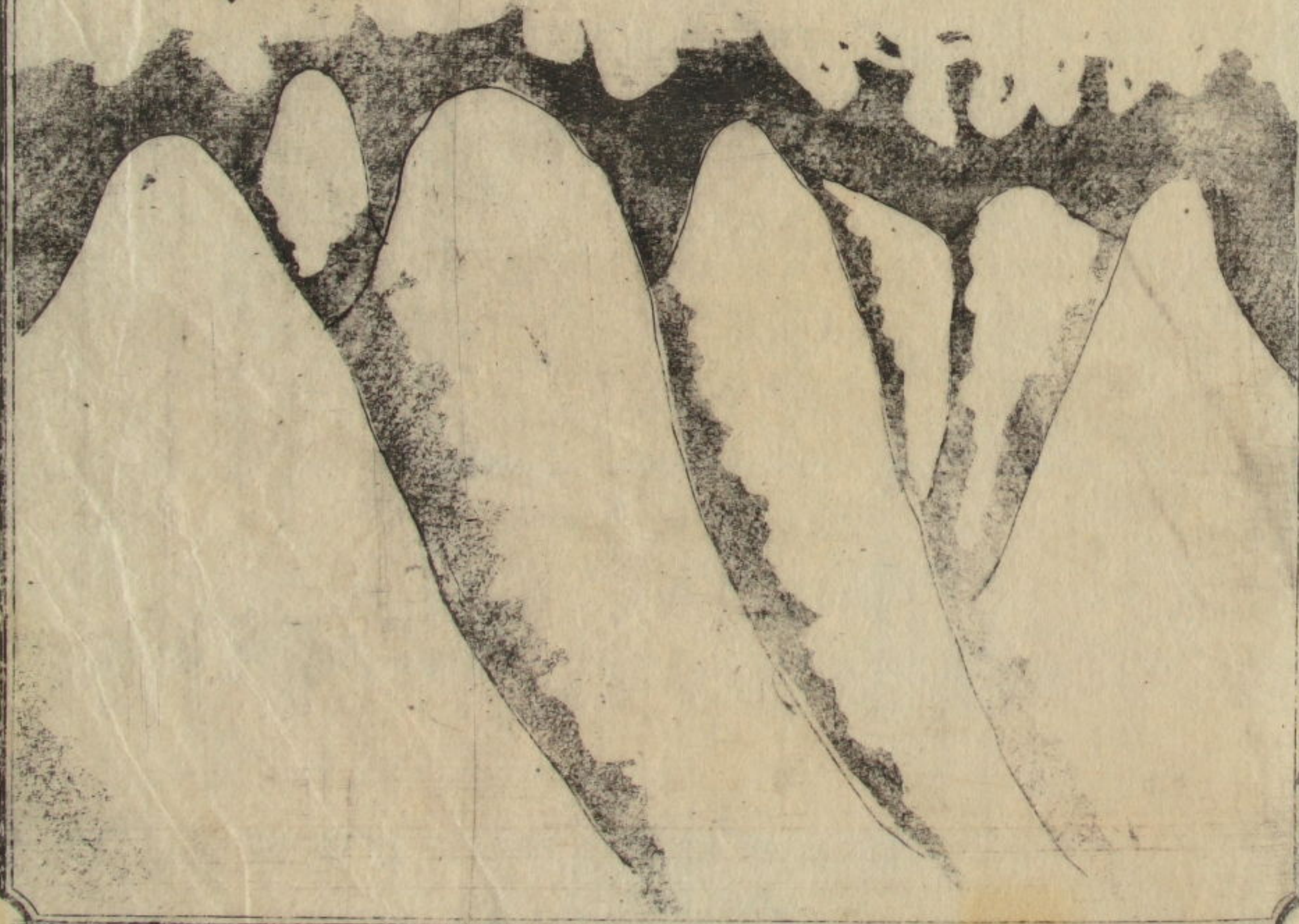
うつもれて

月小光を

光ある玉何お

トウ一窓

葛地里子



陸奥八戸鮫港蕪島鷗群之佳景

雪溪

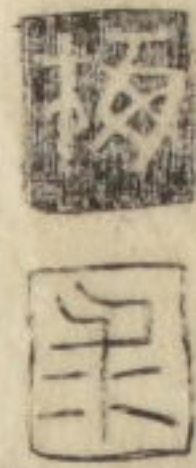
多しき

千船の

菜や

月の光

梅求



越后国一の宮弥彦神社の景



弥彦のありの松風秋涼
うすあつらの影をばひま

戸田 滋

豊後国日田郡豆田町慈眼山絶景



涼うる月や

絶景の

と 雲

幽抱



帰る帆の

のけり重りて

春の丸

豊前

吹寄せ



日頃

松の風

種如

松美併画

嶺頭白雪三玲
瓏千仞高聳入
半空隨處鶯兒
声未老葉間猶
是駐殘紅



桂軒寫

中多所也
中多所也
中多所也





女尊の
 木立の
 深き中
 にあり

清松
 画

杜野馬
 前

卷ノ一



偉
 なる
 樹

の
 むね
 は
 千
 年

白
 雲

か
 け
 ら
 れ
 た
 雲

三
 八

卷ノ一

紀伊國友島ノ景



友島ノ景
紀伊國友島ノ景

卷八

能登國有磯之真景



能登國有磯之真景
有磯之真景

有磯之真景



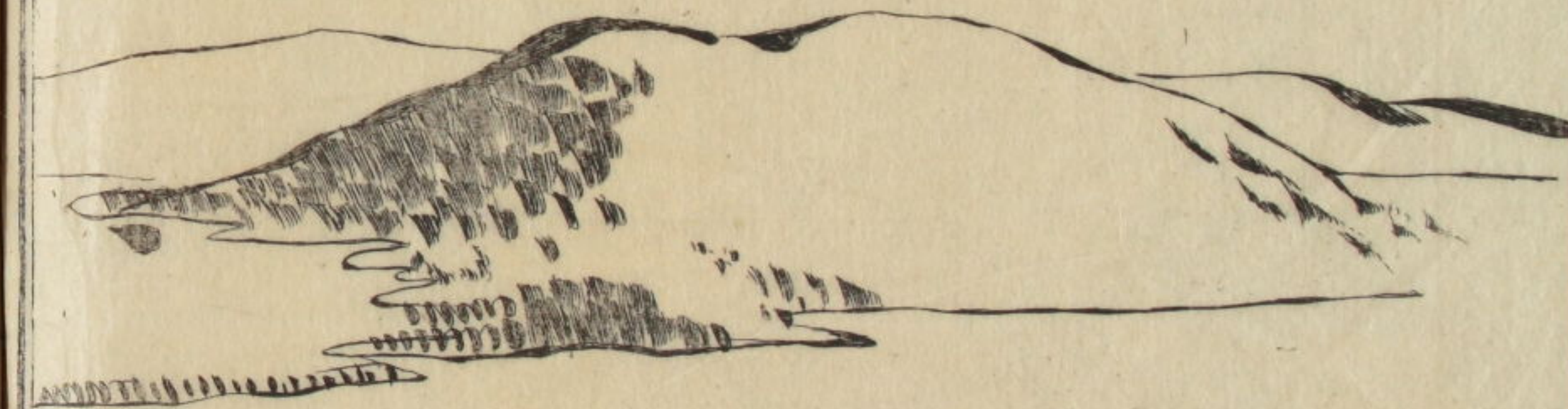
卷八

安政三年五月丹後玉田近

橋立や世と離れし風草を
目のみ故きり無縁の暮
青貝と朱鞘の別は深なる
ふんのうんのと照はむる
さしじてもと燈暗き日の
松茸科理白ひぬくく
佛も鬼も入る毛見せり
女支りに門掃りあ
抱いてソつても白く袖は
依念の尻のおこり安きよ
の空の都と数寄屋の床に
ふゆ工すれい草の
帰る燕の海に法鳥
千破れ国に山田を
塔の負仏の砂投て
花は破れくは休む
誰も影てや面白

双

双 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙



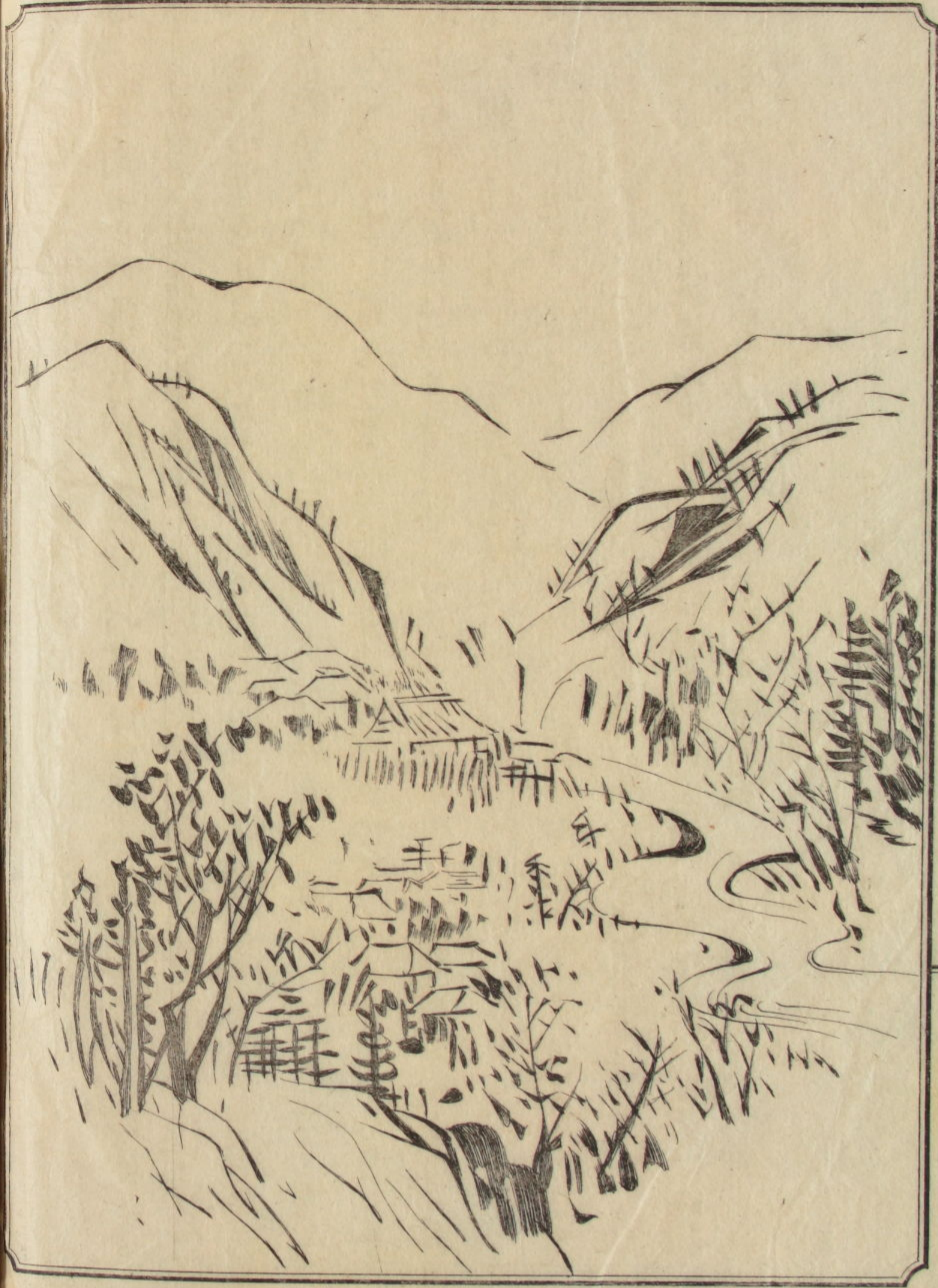
丹

てをのどと野田を向ふ
船をさる魚に猫の
石を運ぶ鳥もそ
三つをのの脚も伸
何れはあはれは舞
流乳をののみを
はあめも西風を
札のやうふまつ
竹を代ふ十八の
蓮葉なりのみ合
安まのふい日お
ぬれほてうて白
はしりとををい
雅も作るもえ申
下品のくまひの
おひえの松子志
むすのみをとも
別しやうもそ
橋立や松茸
海より深緑り

全 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙 雙

五車系 丹蓉





肥前小国郡古湯村鶴靈泉景

續岳之南云北流之水涌出大河則信守言據出烟沼水為之久開塞而水
半月幾至矣新造嘉源寺亦生自地以地安不到村極宜存古湯水昔智海
人志悟水德而首泉一泓九阜仙會只此之久流而經及道瀛鳴呼世間之
涇泉擊石而流而下至激流如油試浴泉為延壽醫社民并此一浴延延是
大於一坐流泉之可見其能激流延延肌膚經年及於此流泉至其泉擊石
亂身結巾兼其傳酒軍多遊遊入之其習固不同吟而掃葉欄外風十
于此一耽風雅奇蹟無云云今之廢門地四民因一保權利規矩的踏古
新新命唯候「佛也其命是鄉人立此盤之想石之石確呼子聽者
今新新命之文子新新規多其年痼疾醫而新葉一入浴室活外
那也此新新命之流也其流動能祛疾民其之灌湯必灌佛流是病根
心塵現灌山河為奇新古湯之名每回更也

新新

上流之山稿

日本名所回文七十二吟ノ内

上巻 教訓庵 悟道

名所あり内 妙のともや波瀾も思ふ宿病

名不揚 大和

うらなもせう 福原の祀役

全 貝 橋津

全 舌 近江

遠くともかき貝風と難波原

貝すえやきふの 葉香楽全産

全

全 山城

光の影よ浪逆を陸寄員

退去ん 聖葉堂や産出野

全 蒲公

全 美州 大和

咲見つゝ来り 以成鼓舛

春日野も 村草晴む世の幽

全 橋 多花

全 橋 多花

樂さきや 返を飛鳥の少梅

見つゝぬす 橋舛 紐つ隅田堤

全 花 大和

全 夜火 橋津

来りつゝをき 昔中 御来りよ 起る

慶や来りつゝ 夜火も 雲よ 五月山

全 雨 上野

名不揚 大和

月鏡つゝ 空の侍者 保の五月句

来のとき 来官山や かつこの月

全 島 大和

全

長地地 申宜之 檜原を白雨

了麻ふ 見来 近つよ 月の隆川

全 堂 安藝

全 子 大和

暗の来と 将を 堂の 漸の官

了麻ふ 見来 近つよ 月の隆川

全 海 壱岐

全 虫 信濃

新の身 腹浮浦を 海松をか

芝地丸く 虫軍の 関む 釜路橋

全 教 陸前

全 舌 大和

官城堂の 杖よ 見好き 野の 氣病

消申 延と 白ふや じ 旅の 名

全 女 花 大和

全 舌 河内

菜系 身を 誰を 盤余と 女帝花

交理と 名官を 花宮を 宿の 慶

全 月 橋津

全 鳥 大和

名々好つ 頂磨の 地の 増す 息

藝の 名 野鳥や せもの 舞の 池

日暮山秋月 塔影一枝
静きや見高山の 秋の月

波尾港帰帆 全
東風吹や波尾の帰る 舟の舟

新五橋又思 全
暮咲や夕照つゝ 新五橋

静五坂夜更 全
静き夜更す夜更の静也 静五坂

物あふきき 全
物あふきき物あふきき 物あふきき

安き吹鐘 全
吹鐘を秋の別れや 安き吹鐘

香あふきき 全
香あふきき香あふきき 香あふきき

静五坂夜更 全
静五坂夜更す夜更の静也 静五坂

